特集

連携がつくる大学の新たなかたち

18歳人口の減少やグローバル化の進展等、高等教育を取り巻く環境が大きく変化するなか、大学は多様化する学修者のニーズや社会からの要請に応えていかなければならない。

厳しいマーケット環境を捉え、経営効率化の観点や、学修者にとって魅力的な教育内容を提供する観点から、大学間が連携・協力して教育研究活動等に取り組んでいくことが期待されて久しい。

各地域における大学コンソーシアムも数多く立ち上げられており、また2018年のグランドデザイン答申等においても、大学連携推進法人の枠組みや地域連携プラットフォームの構築を通じた新たな取り組みの推進も提言されており、実際に主体的に連携を進める組織間の連携もある。

また、大学連携という「ヨコ」の繋がりだけでなく、高大連携・高大社連携により、学修者の意欲をシームレスに繋ぐとともに、社会のニーズを学びに反映することによって、より高い教育成果を実現する動きも期待され続けている。

しかしながら、実際には、独自の建学の精神とポリシーを掲げる異なる大学同士が、時代のニーズに即した連携あるいは危機的状況を回避する連携を相互に手を携えて推進していくことは容易ではないと考えられる。各大学ならではの強みや優位性を失わずにブランド価値を棄損し合うことなく繋がることができるのか。大きな方向性では合意形成できたとしても、マネジメント体制や風土の違いを乗り越えるだけの強靭さと柔軟性が組織にあるのか。繋がることが本当に経営効率化の最適解なのか。経営者にとって解くべき問題は多い。

今回は、大学間、あるいは高校―大学が繋がり合うことによってどのような価値が創出されるのか、そして効果的な連携のために必要なこととは何かについて、様々な角度から掘り下げてみた。少しでも難問を解くヒントになれば幸いである。

CONTENTS

Contribution 大学間連携の意義と可能性
日本私立大学協会 私学高等教育研究所 主幹・就実学園理事長 西井泰彦

Case Studies 異なる大学同士で連携する動き
神田外語大学／東京電機大学／やまぐち共創大学コンソーシアム

Contribution 大学間連携と国際教育
――欧州とアジアから連携のあり方を考察する
関西国際大学 副学長 芦沢真五

大学間連携の推進に向けて
文部科学省高等教育局企画官（併）高等教育政策室長 髙見英樹

Case Studies 高校―大学間の連携のかたち
順天堂大学／岩田中学校・高等学校

Interview 佐賀大学 とびらプロジェクト

編集長の視点

▶カレッジマネジメントTOPページへ戻る